



〔鈴ヶ峠；向かって左側が「天晴」の私年号の入った石灯籠。右側は「明治7年」製。〕



〔三十六歌仙画〕

旧松山街道

藩政時代に、土佐から伊予に行く主要街道で、幕末の1864年8月14日夜、田中光顕（後の宮内大臣）ら5名の脱藩志士が通り、慶応4（1868）年1月には松山藩征討軍（“松山征伐”）の土佐藩兵1600余名が進軍した道でもある。また、岩崎弥太郎が長崎に行く際や、ジョン・万次郎がアメリカから帰って来る時も、この街道を通ったと言われている。

街道の名残は、越知町内に比較的よく残っている。旅人になった気分が、かつて多くの人々の往来で賑わった歴史街道を遺構を見ながら歩いてみるのもいいものである。街道の主な見どころを紹介すると、

- 〔堂岡一榎ヶ峠〕
- 堂岡 「焼坂」の上り口にあつて、旅人泣かせの急な焼坂道の起点。ここにある「仁井田五所神社」は自由民権運動の際の演説会場となった。
- 「ヤケ坂遺跡」 弥生時代の高地性遺跡で、磨製石斧〔緑色片岩製〕・石包丁〔黒色頁岩製〕が出土している。
- 「店屋（茶店）跡」 焼坂の中程の池ノ本と呼ばれるかつて池のあった所にあつて、旅人に茶を振舞っていたそうである。
- 「八里塚」 焼坂の上り口から30分ほど歩いた所にあり、塚石が今も残っている。高知の城下から八里〔約43.6km〕に当たる。
- 「榎ヶ峠（榎休場）」 焼坂の上り口から約1時間の所にあり、急坂の焼坂道の終点。眼下に越知市街地・仁淀川が見渡せる。昔、旅人が必ず一服した所で、先の松山藩征討軍の藩兵もここで休みをとった。
- 〔榎ヶ峠一薬師堂〕
- 「谷中」 24竝立方の砂岩製の全国的にも珍しい道標〔文政12（1829）年〕（博物館に展示）がある。
- 「巻口水」 旅人が喉を潤した谷水。
- 薬師堂 松山街道の要衝の一つで、かつては茶屋の他旅館が7軒ほどあつて中枢宿場として賑わった。また、高知県で最初にできたキリスト教会（木造2階建）があつた所として知られる。東の高台には長州大工の手による県内でも有数の見事な造り（木組み・彫刻）の「大山祇神社」〔明

治12（1879）年作〕がある。天井には地元深瀬集落の大原健吉作と言われる数少ない『三十六歌仙画』*1が描かれている。明治15年には、坂本龍馬の甥・坂本直寛らを招いて、“自由は土佐の山間より出づ”をスローガンに境内で自由民権集会の演説が行われた。

〔薬師堂一鈴ヶ峠〕

- 「山本虎吾堀」 明治20（1887）年、地元農民・山本虎吾らが掘った「清水井出」の用水池。
- 「御手洗石」 大正9（1920）年に奉獻されたもので、「九里塚」の塚石のすぐ後ろにある。
- 「岩屋の地蔵」 鈴ヶ峠の200～300ほど手前の巨大な岩の岩陰にひっそりと立っている。天明6（1786）年製の石仏。
- 鈴ヶ峠 黒森山（1017.3m）北西麓に位置する峠（822m）。使用されることのなかった“幻の年号”「天晴」*2〔慶応3（1867）年；明治の前年〕の入った石灯籠（「月燈」：本体高さ1.85m、砂岩製）がある。黒森山やその東の五在所山の山頂からの北方の山並みの眺望は素晴らしく、筒上山、手箱山、石鎚山（天狗岳）などの四国山地の山並みが手に取るように見える。また、五在所山山頂付近の桑敷地区には、全国的にも珍しい段々の積敷のあるすり鉢状の“野外相撲場”があり、かつては見物客で賑わったという。

旧松山街道は、地元横島地区の地域活性化グループ『虹色の里 横島』（平成15年結成、代表：大原泰生）のメンバーらによって整備されつつある。また、『自然案内人養成講座』や“田舎体験ツアー”（山菜採り・お茶摘みなど）を開催し、地域内外の交流を図り、住民が故郷に夢と誇りを持てるよう地域を盛り上げるためのいろんな取り組みを行っている。

*1 当館のオープンに際し、横倉山の大作〔M800〕を寄贈してくれた洋画家・野並允温氏（大阪在住）も薬師堂出身である。
*2 県内ではこの他、安田町・赤岡町・土佐山田町・春野町のみで使用された私年号。

〔註〕「松山街道」に関しては、『ふるさとの今昔-越知集落史-』（2004、越知史談会）と『広報おち』（大原純一、連載中）でも取り扱われている。

横倉で見られるスマレについて

大倉 浩典

春の野草として先ず目にうかぶのは、日本人ではスマレではないでしょうか。昨年完成した『高知県植物誌』によると、現在高知県で見られるスマレの仲間は38種類、その中で牧野富太郎博士が命名したスマレは6種類。一方、横倉山周辺で見ることのできるスマレは、38種類中ツボスマレ、タチツボスマレ、シロバナタチツボスマレ、ナガバタチツボスマレ、ニオイタチツボスマレ、アオイスミレ、ナガバスマレサイシン、スマレ、ホコバスマレ、ヒメスマレ、ノジスマレ、コスミレ、アカネスマレ、マルバスマレ、エイザンスミレ、シハイスミレ、フモトスマレ、ヒメミヤマスマレ、コミヤマスマレの19種類。そのうちシロバナタチツボスマレ、マルバスマレ、ヒメミヤマスマレ、コミヤマスマレの4種類は横倉山などの標本で牧野博士が命名したものです。

日本のスマレは大きく分けると、地上茎のあるスマレと地上茎のないスマレに大別でき、横倉山のスマレをこの2つに分けて紹介したいと思います。

1) 地上茎のあるスマレ

①ツボスマレ（坪藎）

湿気が多い庭（坪）先から山地の沢沿いの林の中まで、比較的日陰を好み、スマレの仲間では開花期の遅いスマレの一つで、横倉山では4月中旬～下旬に咲きはじめる。

葉は2～3センチの心形～腎形で掩葉は披針系で切れ込みがなく、花のない時期でも掩葉を見れば切れ込みのあるタチツボスマレと区別できる。

花はスマレの仲間では小さい方で直径1センチ、白色で唇弁の紫色のすじがよく目立ち、側弁の基部は有毛。地上茎を伸ばして大きな群落をつくる。

横倉山では第1駐車場の「四国のみち」・南遊歩道登山口の左手の溝や住吉から南廻り“三嶽古道”大平分岐付近の沢沿いに大群落がある。

別名ニョイスミレの「ニョイ」はこのスマレの葉の形が僧侶の持つ「如意棒」に似ていることからつけられたものである。

②タチツボスマレ（立坪藎）

日本で最も多く見かけるスマレの1つで、高知県でも、また横倉山でも麓から山頂まで、日当たりのよい所なら林の中でも見かけ、南斜面の日当たりのよい石灰岩の隙間に根を下ろした株などは2月頃から花を見ることが出来るスマレである。

花期の葉は2～4センチの心形、掩葉には櫛の葉

状の切れ込みがある。花は直径1.5～2センチ、淡紫色ですっきり整った花形で、中心部には白く紫色のすじが入り、側弁の基部は無毛。地上茎は花の咲きはじめは伸びず、その後長さ20センチ位に伸びる。

③シロバナタチツボスマレ（白花立坪藎）

タチツボスマレの白花品種で牧野博士が命名、基準産地は横倉山。横倉山では第1駐車場手前のトサミズキの植込み入口付近の林道沿い、第2駐車場周辺と手前の八坂神社付近、第3駐車場手前の林道沿い、杉原神社から山小屋周辺でよく見かける。なお、花全体が白色のシロバナタチツボスマレと唇弁の基部が筒状に伸びた距の部分だけ有色で、他は白色のオトメスマレとに区別することもあるが、標本にすると両者識別できずに『高知県植物誌』では、両者まとめてシロバナタチツボスマレで統一している。

④ナガバタチツボスマレ（長葉立坪藎）

タチツボスマレによく似たスマレで、地上茎が伸びて茎葉がでるまでは区別がつきにくい。

花は直径1.5～2センチ、色はタチツボスマレより少し濃い淡紫色で中央部の白い部分がよく目立ち、側弁の基部は無毛。根生葉は葉脈や裏面が紫色を帯びるので注意すればタチツボスマレとは区別できる。地上茎が伸びると茎葉は3～6センチで細長い長卵形～披針形で葉先は尖り、掩葉は深く細く切れ込むので区別しやすくなる。

水はけのよい半日陰を好み、横倉山では第1駐車場の「四国のみち」・南遊歩道登山口周辺の林道沿い、第2駐車場手前の八坂神社周辺、馬鹿だめしの岩場の南側、平家穴周辺、畝傍山眺望所付近に多い。

⑤ニオイタチツボスマレ（匂立坪藎）

タチツボスマレの仲間では最も花色が鮮やかで濃紫色から紅紫色、花の中心の白い部分と花弁の紫色のすじがよく目立つ。側弁の基部は無毛、花は1.2～1.5センチで丸みがあり、花が終

わってから地上茎が伸びるので、花期は無茎種のスマレと間違いやすい。他のタチツボスマレとの違いは、掩葉の裂けかたが粗く、特に花柄に微毛のあるのが特徴。明るく乾いた場所を好むので、



横倉山では第1駐車場の東向き斜面や第3駐車場の北向き斜面の草原に群生している。

⑥アオイスミレ（葵堇）

スミレの仲間では開花時期が最も早いスミレの一つで、木の芽が伸びはじめる3月上旬に咲き始め、普通のスミレが開花期をむかえる頃には花期が終り、地面を這うように走出枝を伸ばして新たに苗を作り群落を拡げる。

花期の葉は長さ2～3センチの円形～円心形、葉の形がフタバアオイ（アオイの紋所）に似ているところから和名がつけられ、また走出枝から出る葉は5センチ以上もあり、フキの葉に似ているのでヒナブキの別名もある。またアオイスミレは葉の展開にも特徴があり、葉の両側が丸まって2本の筒が平行に並んだ状態の新葉が両側に葉を拡げていくという一寸変わった葉の開きかたをする。

花は1～1.5センチ、白色に近い淡紫色で花柄が短いので葉の上に花が乗っかっているように見える。

生育場所は比較的湿り気の多い林縁を好み、横倉山では第2駐車場手前の八坂神社周辺の林縁と第2駐車場から第3駐車場の方へ少し登った路肩に群落がありました。最近では消滅、現在は第2駐車場入口から先の林道横倉長者線の道沿いで見られる。なお、アオイスミレは暖冬の年は花が少ないとも言われ、今年はどうでしょうか。

2) 地上茎のないスミレ

①ナガバノスミレサイシン（長葉堇細辛）

日本特産のスミレで、太平洋側で比較的雪の少ない山間地（スミレサイシンは日本海側）で見られ、高知県では中部山間地に多い。

半日陰の適湿な場所を好み、杉林の中でもよく育ち、地上茎ではなく地下茎を伸ばすスミレ。

草丈5～12センチ、葉は5～8センチの披針形、長い花柄を出し、花は直径2センチ、花色は淡紫色～白色で唇弁の紫色のすじが目立ち、側弁の基部は無毛。

横倉山では、「^{からいけ}空池」の東入口（サワグルミの生えている所）と“三嶽古道”の「井泉社」入口付近で見かけるが、開花時期には中々出会えない。

②すみれ（堇）

一般にスミレと言えば、先ず目に浮かぶのがこのスミレ。しかし、横倉山では殆どがタチツボスミレでこのスミレを探すのは一苦勞である。

日当たりのよい所を好み、草丈は7～11センチ、葉はヘラ形で花期の葉身は5～8センチで先は円く、長い葉柄にははっきりした翼があり、花茎の高さは5～20センチ、花は直径2センチ、濃紫色で、唇弁の中央部は白地で紫色のすじが入り、側弁の基部は有毛、根は黄褐色。

横倉山では、文徳登山口の墓地周辺と第1駐車場の「四国のみち」・南遊歩道登山口を登りはじめて赤土の登山道の部分で見かける。

③ホコバスミレ（鉾葉堇）

スミレの変種で葉が細く鉾形になるスミレで、西日本の標高の高い草原に多く、母種と混生することもあると『日本のスミレ』に紹介されている。高知県では蛇紋岩地や四国カルストに多く、『高知県植物誌』によると横倉山でも採集の記録がありますが実物を確認していません。もし何方か見掛けましたら生育場所を横倉山自然の森博物館までご一報ください。

④ヒメスミレ（姫堇）

スミレによく似た小型のスミレで人家近くの道端や墓地など日当たりのよい所を好む。草丈は3～8センチ、葉は2～4センチの三角状披針形、葉柄に翼は殆どなく、花茎の高さは10センチ、花色はスミレ同様濃紫色で花の大きさは直径1～1.5センチ、側弁の基部は有毛。

横倉山では、南斜面の中大平集落の石垣沿いの道端などで見かける。

⑤ノジスミレ（野路堇）

日当たりのよい道端や野原で見られ、スミレに似ているが花色も白っぽく葉も平開するので、スミレと較べると“締りが無い”感じがする。

根は白色で太く、花期の葉は長楕円形～長披針形で、先は尖り葉柄が短く翼もせまい。

3月下旬頃スミレよりも少し早く開花し、花茎の高さは2～10センチ、花はスミレよりも少し小さく1.5センチ位。花色は紫～紅紫色で側弁の基部は無毛、全草に白くて細かい毛があり花柄の上半部に微毛が生える。

横倉山では、「四国のみち」・文徳登山口から少し登った空地に群生していたが去年は消滅。

⑥コスミレ（小堇）

名前はコスミレだが、スミレと較べても決して小さくなく、草丈は6～12センチで、平地の人里近くの道端から丘陵地や山地と広範囲で見られる。

葉はやや丸みのある長卵形で、葉の裏側には紫色を帯びるものが多く、花数の多いスミレの一つ。花は直径1.5～2センチで、花色は白っぽいものから淡紅紫色のものまで変化が多く、唇弁の紫色のすじが目立ち、側弁の基部は無毛。

横倉山では、第1駐車場手前のハギ園入口付近の林道沿いで多く見られたが最近では消滅、現在は横倉山南斜面の中畑集落に行く途中の林道沿いで見ることができる。

⑦アカネスミレ（茜堇）

丘陵地から山地にかけて日当たりのよい場所を好み、花が茜色（紅紫色）なのでこの名前がつけられ、全

草に短毛のあるのがこのスミレの特徴。

草丈は5～10センチ、花期の葉は2～4センチで狭卵形～卵形。花は直径1.5センチ前後で淡紅紫色から紅紫色、側弁の基部は白毛密生、特に唇弁の基部が後方に筒状に伸びた距の表面にも毛のあるのがこのスミレの大きな特徴です。

横倉山では、第3駐車場北向きの斜面でニオイタチツボスミレと一緒に生えている。

⑧マルバスミレ（丸葉堇）

横倉山などの標本で牧野博士が命名したスミレの一つで“円い葉のスミレ”という意味だが、他のスミレと較べるとやや円くみえる程度。

草丈は10センチ位、葉は長さ2～4センチで卵型、基部は心形。花は直径2センチ位で白色、唇弁にはわずかに紫色のすじがあり、花弁は丸みがあり葉の緑と花の白さが対照的で美しい。半日陰で山肌の崩れやすい斜面を好む。

全体に毛の多いものをケマルバスミレ、側弁の基部も有毛のものをヒゲケマルバスミレと区別することもあるが、高知県では無毛のマルバスミレは確認されておらず、『高知県植物誌』では区別せずすべてマルバスミレで統一している。

横倉山では、空池の南向き斜面と住吉から南廻りの“三嶽古道”沿いで多く見られる。

⑨エイザンスミレ（叡山堇）

日本特産のスミレで、“比叡山に生えるスミレ”の意味。数少ない複葉性スミレの一つで、高知県では中部山地に多い。葉は基部から3裂し、葉全体の形は三角形で他の複葉性スミレと区別できる。山地の木陰で湿り気のある傾斜地を好み、杉林の中でも少し明るい所なら開花する。

草丈5～15センチ、葉の裂け方は基部から3裂し、それが更に裂けて一見5小葉にも見える。（よく似たヒゴスミレは基部から5裂する）

花は直径2.5センチと大輪で淡紅紫色、側弁の基部は有毛。横倉山では南廻りから北廻りの“三嶽古道”に通じる近道の杉林の中に生えている。

⑩シハイスミレ（紫背堇）

西日本を代表するスミレの一つで、葉の裏が紫色を帯びることによってこの名がある。乾燥した所を好み、草丈は3～8センチ、葉の長さは2～5センチの長卵形～披針形で葉の裏は紫色、葉の表面の葉脈に沿って白い斑の入るものも多い。

花柄は約8センチ、花は直径1.5センチ位で淡紅紫色～濃紅紫色まで変化が多く、側弁は無毛。

横倉山では、水はけのよい林道沿いや南遊歩道で

よく見かけるが、特に“三嶽古道”の一本木からエボシ岩に向う登山道沿いに多い。

⑪フモトスミレ（麓堇）

『高知県植物誌』で見ると、高知県では中・東部に多く西部にはないスミレで、名前は「麓」であるが、天狗高原などでも見られ、水はけの良い場所を好む。

全体に小型のスミレで、草丈は3～6センチ、草に隠れて探すのに苦労する。葉は1～3センチの卵形、葉の裏の葉脈に沿って白い斑の入るものも多く、葉の裏も紫色で、花のない時期はシハイスミレと間違えやすい。花は直径1センチ前後と小さく、白色で唇弁は他の弁より小さく紫色のすじが目立ち、側弁の基部は有毛。

横倉山では、第1駐車場の東向きの斜面で多く見られる。

⑫ヒメミヤマスミレ（姫深山堇）

牧野博士が横倉山などの標本で命名したスミレの一つで、フモトスミレの亜種と考えられフモトスミレとよく似ているが、ヒメミヤマスミレは葉の鋸歯が粗く、形が三角形に近い心形で葉の裏は淡緑色。『高知県植物誌』で見ると県内では中・西部に多く、東部では見られないことなどで区別できる。

横倉山では、カプト嶽から三角点（774.3m）までの尾根筋の遊歩道でよく見かける。

⑬コミヤマスミレ（小深山堇）

日本特産のスミレで、牧野博士が横倉山などの標本で命名したスミレ。スミレの中で最も日陰を好むスミレの一つで、杉林の中のじめじめした所や、沢沿いの苔むした石のそばなどに多い。

草丈4～8センチ、葉の長さ2～4センチの卵形で基部は心形。葉の表は緑色ないしは暗緑色で、葉脈に赤紫色のすじのはいるもの、斑入りのものなど変化が多く、表面には毛があり、裏は普通紫色を帯びる。

花は直径1～1.5センチ、白色で唇弁に紫色のすじが目立ち、側弁の基部は有毛。フモトスミレに似ているが、生育場所や特に萼片がそり返り毛が生えているので見分けられる。

横倉山では、屏風岩から夫婦杉周辺、杉原神社から小橋周辺、安徳天皇陵墓参考地前の沢から“三嶽古道”北廻りの遊歩道沿いで多く見られる。

（おくら こうすけ／元高知中央高等学校教頭・植物研究家）



商店街の旧店舗を活用した文化活動

安井 敏夫

最近、全国的に大手スーパーマーケットや総合衣料品店などの大型量販店、コンビニエントストア（“コンビニ”）等の進出により、旧商店街から客足が遠ざかり閉店する店が目立ちはじめ、商店街が寂れていっているという深刻な現象があちこちで見られるようになってきた。

このような深刻な状況を克服するために、全国各地で“商店街の活性化”や“町おこし”と称して「地域の活性化」に向けてのさまざまな取り組みが行われている。中でも、“団塊の世代”にとって懐かしい昭和30年代の町並みを再現したり、高知県の例では、室戸市吉良川町、香南市赤岡町、吾川郡いの町などで古い町並みを活用した活性化のための各種イベントが行われ賑わっている。



さて、当地越知町は、明治以降に養蚕・製糸業によって栄えた町で、明治～大正初めにかけて、165軒もの商店が軒を連ねていたとう。町内を松山街道（高知一松山）が通っていて、渡しがあったこともあり、商業の町として大いに栄えた。問屋、呉服屋、染物店、旅館、料理屋、米穀商、菓子製造、酒屋、薬屋、鍛冶屋、運送屋、大工、左官等々、ありとあらゆる職種の商店があって大いに賑わった。そんな商店の中に、大川薬舗〔写真〕があったが、時代の流れに押されて、残念ながら、平成21年春に店を閉めることになった。当店は、大正8年創業で、現在の建物は昭和8（1933）年に建てられたものであるが、その造りが大変凝っていて、高知県の伝統的民家建築を取り扱った『土佐の民家』（高知新聞社）にも取上げられているほどである。注目すべき点は、2階のガラス戸を覆う雨戸がないことと、一階の一尺〔約30.3センチ〕角の見事なケヤキの大黒柱である。この数少ない立派な建物を何とか活かさないかと、地元商店街の有志が立ち上がり、持ち主の理解もあって“ミニ資料館”として活用することになった。

平成21年10月には、第1回目の展示会〔主催：おち町並の会、後援：越知商工会〕が開催された。明治・大正期に地元の各商店が得意先に配った「引札^{ひきふだ}」（“チラシ”）※と旧商店街の手造り模型、懐かしい写真等

を展示・解説した『「引札」と明治・大正の「町並」展』は、懸賞付の福引もあって、期間中大勢の町民で賑わった。

第2回目の展示会は、平成22年2月27日から3月3日に、「雛祭り」に合わせて開催された。出し物は、お雛様〔明治時代〕と雛軸、それに、地元出身の陶芸家と弟子たちの作品（展示品及び即売品）で、引札（一部）もあった。5日間で400余人ほどが見に来てくれたようで、場内に設置してあった募金箱には、心暖まる募金が寄せられていた。「空き店舗が多くなり淋しく思っていました。こんなよい催しを続けていただけたら楽しいと思います」「こうやって、町の中でゆったり

りと過ごせる場を作ってくださいうれしく思います。大変でしょうけど続けて下さればうれしいです」「…商店街の活性化の為にも継続してほしいと思います」「町の活性化にいろいろ催しを考えて下さって有難いことです。こういうイベントが季節毎、月毎にあると楽しみです」「国道沿いに情報センターができますが、商店街でもこのようにここを中心に展示など人が集える機会を作ってください」などの感想が寄せられていた。同会の代表：横川満久氏も、「とにかく町民の皆さんに喜んでもらえたことが何よりも嬉しい。できれば、（貴重な募金を有効に活用し）今後も活動を続けていきたい。」と夢を託していた。

この他、越知町の旧商店街には、所々に土佐漆喰の壁の残る明治時代の商家（残念ながら通りからはほとんど目立たない）が残り、また、吉田茂元首相が選挙の遊説の際泊まったという、大変趣きと由緒ある老舗旅館「谷脇旅館」（明治期創業）もあり、町の歴史を語るものとして是非後世に残したいものである。



※資料提供：
島崎 誠氏（越知町出身）ほか

（やすいとしお／横倉山自然の森博物館 副館長兼学芸員）

博物館行事

企画展：『土佐の野鳥たち』

〔2009年9月26日(土)～11月8日(日)；協力：日本野鳥の会高知支部、NPO法人 四国自然史科学研究センター〕

高知県は県土の84%を森林が占め、そこを縫うように四万十川・仁淀川・物部川の三つの河川が流れ、太平洋に注いでいる。このような自然豊かな環境の下、山野や水辺に生息する野鳥や渡り鳥の種類も多く、日本国内で観察されている600種を超える野鳥のうちの6割近くが県内で確認されている。そして、仁淀川について言えば、留鳥・夏鳥・冬鳥・旅鳥（“渡り鳥”）など180種前後が毎年見られ、迷鳥を含めると200種を超える多くの野鳥を見ることが出来る。

今回の企画展では、「日本野鳥の会高知支部」の会員の方々が日頃観察し撮影した土佐の野鳥たちをテーマにした約50点の写真の中から、主に仁淀川流域で見られるさまざまな野鳥たちの生態・生活ぶりを紹介した。そこから、高知県内に生息するさまざまな野鳥たちに興味や愛鳥心を持ち、私たちが普段あまり気に留めない中にも、自然の中で生きていくための、可愛くもあり、また、真剣なありのままの姿を知ってもらおうと同時に、その生活の背後にあって命を育む自然の大切さも認識して頂く機会となることを願った。

結果は好評で、高知県内の身近な所に、こんなにもたくさんの可愛く、きれいな野鳥たちがいるということがわかってもらえたことは大きな成果であった。また、バードウォッチングを始めたいという来館者もいて、愛鳥心を抱ききっかけになったことは有難かった。

主な感想として、「高知県内にこんなにカワイイ鳥がいっぱいいるなんて知りませんでした」「毎日の生活の中でこんなにも身近に野鳥がいるなんて…」「すごい写真ばかり！ビックリしました」「撮影された方々の鳥と写真にかける情熱に圧倒されました」などがあつた。



『新屋まりコンサート～月の宴～』

〔2009年10月3日(土)；主催：新屋まりコンサート実行委員会 参加者：60名〕

越知町の第27回『コスモスまつり』の初日のイベントとして、シンガーソングライター・新屋まり（広島県出身）のコンサートを、横倉山自然の森博物館 3階テラスで開催した。安徳天皇を題材に平家一門に捧げる「横倉の風」



を始め全13曲を、ススキにだんごを供え、竹筒に仕込んだローソクのほのかな明かりを随所にセットしたテラスで、名月をバックにギター演奏をした。立烏帽子に神楽の衣裳姿でのゲストの照芳氏の篠笛も交え、「平家の里・越知町」、「月を愛でる会」に合ったムードの下、月夜のライブを楽しみ、皆で感動のひと時を過ごした。

『仁淀川・四国カルストジオパーク』越知町説明会

〔12月6日(日)；参加者：約70名〕

2009年1月に越知町近隣の6ヶ町村で立ち上げた『仁淀川・四国カルストジオパーク推進協議会』において、今日まで各町村で説明会が行われてきた。今回は、越知町の説明会ということで、横倉山自然の森博物館1階多目的ホールにおいて、町内のジオパーク（地質遺産）としての要素（サイト）について映像を使って紹介した。

越知町のジオサイトの筆頭は、4億年前の日本最古の化石の産地であり、その地質・土壤に育まれた樹齢数百年のアカガシ原生林やここならではの希少植物の自生地、そして安徳天皇陵墓参考地を含む歴史・伝説の山として全国的に知られた「横倉山」（県立自然公園内）である。この他、日本最古の石灰岩（石材名：“土佐桜”）の採石場跡、四国で二番目に深い石灰洞の竪穴、800年以上前の土佐国唯一の修験道の霊場及びその遺構・遺物等々多くのジオパークとしての要素を含んでいる。また、場所は異なるが同じ公園内にあつて4億年前の岩石から成る崖に形成された「大樽の滝」（『日本名瀑百選』落差：34m）や、仁淀川に架かる数少ない中の趣のある4基の「沈下橋」などもある。

午後は、希望者のみマイクロバスで横倉山に登り、現地説明会を行つた。



友の会だより

「国の特別天然記念物“秋芳洞”と瑠璃光寺（五重塔）
視察研修

〔2009年10月17日（土）、18日（日）〔一泊二日〕；参加者：
友の会会員19名（内事務局1名）〕



日本最大のカルスト台地で、「日本三大カルスト」の一つである“秋芳洞”、室町時代に大内氏が築いた“西の小京都”（山口県山口市）の最高傑作である瑠璃光寺五重塔（国宝）、旧萩（長州）藩主毛利氏の庭園・邸宅と毛利博物館〔国指定名勝〕等を視察・研修し見聞を広める。また、越知町や高知県の建築（特に神社建築）とも関わりの深い長州大工を生んだ周防大島にある「周防大島文化交流センター」を見学し、その功績や技術力の高さを学んだ。

「横倉山のヨコグラノキから学ぶこと 1」

〔2009年10月12日（月・祝）；参加者：越知小学校生徒・先生22名〕



木を守る作業〔写真〕も行う“清掃整備登山”。

牧野富太郎博士の発見・命名したヨコグラノキを見て、その意義を知ることが目的とする。土を詰めた土嚢をしょって登り、アカガシの古

「横倉山のヨコグラノキから学ぶこと 2」

〔2009年11月21日（土）；参加者：16名（越知町青年部）〕
昭和30年代まで建築用石材として何ヶ所かで採掘されていた“土佐桜石灰岩”についての案内板（解説版）を設置した。

“土佐桜石灰岩”は、4億年前の日本最古の石灰岩で、淡いピンク色をしていて桜の花びらを思わせるところからそう呼ばれ、人気が高く県内はもとより全国各地で使用されている。越知町の一産業の歴史を語るものとして、また、ジオパークのサイトとしても活用



できればと思っている。

「横倉山のヨコグラノキから学ぶこと 3」

〔2009年11月14日（土）；参加者：友の会会員10名〕

牧野富太郎博士が、横倉山で最初に発見・命名した新種の植物：25種類〔横倉山タイプ植物〕のうち、1884（明治17）年に石灰岩の“馬鹿だめし”



の断崖上で発見し現在もその基準木が残っている貴重な「ヨコグラノキ」（樹齢約150年）の案内板（解説版）を設置した。

「炭焼き体験 2」

〔2009年12月12日（土）；参加者：友の会会員12名、一般3名〕

「オリジナルキャンドルと石鹸づくり」

〔2009年12月19日（土）；参加者：友の会会員5名、一般3名、講師・事務局4名〕

キャンドルは、廃油に各自好きな色のクレヨンを細かく刻んで入れて溶かし、いろいろな形のガラス瓶に芯を立てて流し込んで作る。後は瓶の表面に好きなアクセサリーを付けて出来上がり。



石鹸は、リサイクル廃油を使って作り、よもぎ・どくだみ・きなこ・山椒・炭・ECO石鹸などができる。

「炭焼き体験 3」

〔2009年12月26日（土）；参加者：友の会会員13名〕

「2010年の初日の出を横倉山で」

〔2010年1月1日（金）；参加者：友の会会員6名〕
前日の大晦日の雪のため、いつもの畝傍山眺望所での初日の出は中止となり、第1駐車場でいった。

「スターウォッチング -冬の天の川・すばる-」

〔2010年1月14日（木）；参加者：友の会会員6名、講師：片岡重敦（元横倉山自然の森博物館館長）〕
「全国星空継続観察（スターウォッチング・ネットワーク）」（環境省）の関連行事。

【博物館日誌(抄)・平成22年度博物館行事予定】

- 9月26日(土)～11月8日(日)
秋期企画展：『土佐の野鳥たち』
- 12月6日(日)
「『仁淀川・四国カルストジオパーク』越知町説明会」
- 2010年3月20日(土)～4月11日(日)
企画展：『四国のツキノワグマの今』
- 4月17日(土)～6月6日(日)
企画展：『“森の妖精”ヤイロチョウ』
- 7月24日(土)～9月5日(日)
企画展：『土佐の昆虫』(仮称)
- 9月25日(土)～12月26日(日)
企画展：『恐竜・アロサウルスとその時代』(仮称)
- 10月3日(日)～31日(日)
展示会(越知平家会主催)：『安徳帝と横倉山』

【博物館友の会「フォレストクラブ」の行事と平成22年度活動予定】

- 10月12日(月・祝)「横倉山のヨコグラノキから学ぶこと」
- 10月17日(土)、18日(日)〔1泊2日〕
秋吉台(秋芳洞)と瑠璃光寺(五重塔)視察研修
- 11月14日(土)「ヨコグラノキ」案内板設置

- 11月21日(土)「カブト嶽」と「土佐桜」石灰岩案内板設置
- 12月12日(土) 炭焼き体験
- 12月19日(土) オリジナルキャンドルと石鹸作り
- 2010年1月1日 2010年の初日の出を横倉山で
- 1月14日(木) スターウォッチング～冬の天の川・すばる～
- 2月13日(土) 炭焼き体験
- 4月 春の自然観察会/友の会運営委員会
- 5月 横倉山の野鳥観察会/「呈茶」(博物館3階テラス)友の会総会
- 6月 ヒメボタル観察会(杉原神社)/仁淀川水質調べ〔身近な水環境の全国一斉調査〕/炭焼体験
- 8月 夏休み博物館教室〔昆虫・植物・工作・化石〕/スターウォッチング～夏の天の川・こと座～
- 9月 秋の横倉山ハイキング
- 10月 視察研修〔一泊二日〕
- 11月 里山保全活動/炭焼体験
- 12月 オリジナルキャンドルと石鹸づくり/炭焼体験
- 1月 初日の出を横倉山で/炭焼き体験/スターウォッチング～冬の天の川・すばる～
- 2月 炭焼体験/竹杖づくり
- 3月 草木染め教室

スタッフの声、声、声

【西森】 長年懸案だった博物館の外壁の塗装塗り替えが、このほど完成しました。平成9年オープン以来、自然の森博物館の愛称で親しまれ、森の自然と一体に建った博物館は、ここ数年、外壁や屋上のコンクリートにひび割れやコケが生えたりで、汚れが目立ち、また塗装の劣化が激しく、来館のお客様に不快な印象を与え、大変気になっていたところです。

このたび、国の制度にのりこれらの工事が完成し、きれいになってお客様を迎えられるようになって、関係者一同大変喜んでおります。また博物館に来て頂きますよう、お待ちしております。

【川添】 町民会館周辺の花が咲き始めました。毎年早くなる桜の開花ですが、今年は高知市が記録的な早さで開花したにもかかわらず、雨で寒い日が続きなかなか満開になりませんでした。まっ、その分桜を長く楽しめたかも知れませんが、ところで、町民会館の周辺は、中高年のお楽しみスポット&健康スポットってことご存知ですか？お友達同士やご夫婦で周辺道路を歩いている姿をよく見かけます。冬寒い日も毎日欠かさず歩いていた方には、春が待ち遠しかったのではないのでしょうか。これから、まだまだツツジや葉桜などが町民会館の周辺を彩ることでしょう。

【安井】 今年に入って、博物館の外壁塗装工事の際の足場を組むために水庭の水を抜くことになった。なついていた野生のニ

ホンイシガメの老齢の“お母さん”たち3匹を知人宅のビオトープに預かってもらうことになった。何年も前に、地元の川漁師・宮崎弥太郎さん(故人)からもらって放流したメダカ(何百匹?)も何とか回収して、思い出の“形見”を絶やさないようにしなければと捜したが100匹くらいしか見つからなかった(どこにいったのだろうか?)。別の職員が気をきかして助けてあげたヤマアカガエルの卵も2月中旬には孵化してオタマジャクシとなり両方とも水槽で元気に生きている。どんなに小さな生き物でも長年一緒にいると愛着を感じる。「命」とは本当にかげがえれないもの。“小さな命”を大切にしたいものである。

【小松】 ぎっくり腰になっていて姿勢がよくなって、遠くの山の桜の花がよく見える。浅木の山にも植林の山にも花を咲かせた立派なヤマザクラがあるのがよく見える。遠くの山なので大きさはよくわからない。そこへ行ってみたいと思うけど山に行けば花は見えないかもしれない。山の桜を残している人の心は、小さなスマイルの花を可憐と

思う人の心と同じなのだろうと思う。そうやって春を眺めているけれど、はやく腰を治して、やさしい方々に恩返しをしなければならぬと焦っている。

【伊藤】 家の近所で濃いピンクの桜が満開でした。調べてみたらカンヒザクラのようです。

博物館駐車場では3月に入ってからつぼみがひょうたんの形をした“ヒョウタンザクラ”(エドヒガン)が咲きはじめ、立体駐車場そばの桜も蕾が膨らんできました。今年も梅や桃が咲いたと思ったらもう桜巡りの季節です。今年は夜桜も見に出かけたいと思います。

【小野】 高知県では全国に先駆け桜の開花が発表されました。博物館の駐車場脇にある“ひょうたん桜”も小さな花を咲かせています。それに比べ、スギ花粉の方は不思議なことに飛散が遅いのか、花粉自体が少ないのか、それほど症状が酷くありません。症状に個人差はありますが、花粉症の皆様これはお花見ができるチャンス到来ではないでしょうか。

《博物館からのお知らせ》高知県唯一の「安藤建築」一外壁塗装工事でリフレッシュー

平成9年10月にオープンした、世界的建築家・安藤忠雄設計による横倉山自然の森博物館が、この度長年の外壁の汚れを落として撥水剤を塗装し、見違えるほどきれいになり、来館者の皆様を心地よくお迎えできるようになりました。

今年も、企画展を始め、眼下に清流・仁淀川を見下ろす眺望のいい3階テラスで、恒例の呈茶やイベントを開催する予定ですので、どうか御足をお運びくださいませ。職員一同心よりお待ちしております。

高知県越知町立

横倉山 自然の森博物館

THE YOKOGURAYAMA
NATURAL FOREST
MUSEUM, Ochi

〒781-1303 高知県高岡郡越知町越知丙737番地12
TEL0889(26)1060 FAX0889(26)0620
http://www.town.ochi.kochi.jp/

- 開館時間：午前9時より午後5時まで
最終入館は午後4時30分
- 休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日)
12月29日から翌年の1月3日まで
- 入館料：大人……………500円(※各20名以上)
高校・大学生……………400円(上の団体は100円引き)
小・中学生……………200円
- 越知への交通
高知——JR特急約30分——佐川——バス約15分——越知
JR普通約50分

